

工

三年 筆順 一丁工
クン オン コウ・ク

成り立ち



「大工」さんがつかう大きな「ものさし(じようぎ)」のかたちをあらわした字で、「ものさし」といういみの字です。

だから、「大工」とは「大きなものさし」といういみのことばで、「大きなものさしをつかってはたらく人」だから「大工」というのです。

また、「ものさしをつかってするしごと」のいみにもつかえます。**【例】**工作。

「コウは漢音で、クは呉音。呉音は「細工」「工夫」などふるいことばにおおくつかわれる。」

使い方

▽ぼくは工作のじかんがすぎます。ちょっとした工夫。でもおもしろい作品ができたときなど、とび上がりたいほどうれしくなります。

熟語例

▽大工(工は工作をする人のいみ。家を作るなどの大きな工作をする人のこと。)

▽工作(ものさしをつかって、ものをきちんと作る。学校では「紙・ねん土・木などをつかってものを作る。たいどや力をやしなう学習をする学科」のこと。また、「けいかくを立てたり、ものごとのじゆんびをする」とのいみにもつかえます。)

▽工夫(どのように作るかをかんがえること。また、かんがえついたりまいやり方のいみ)

▽工夫(工事をする男といういみのことば。土木のしごとをする人のこと。)

▽工事(工作の仕事といういみ。土木建築の仕事)

▽細工(細かな工作、といういみの言葉。細かいものを手先をつかって作ること。また、そうして作られたしなもののこと。)

公

三年 筆順 八公公
クン オン コウ
おおやけ

成り立ち



鼻の形をあらわし、「私(わたくし)」といういみをあらわした「ム」と、「分ける(わける)」といういみをあらわした「八(やち)」とを組み合わせで作った字です。むかしは、自分の作った稲(いね)「禾」が「いねをあらわす」を「分け」て、「一ぶを」おおよけ「のひようにあてるた」めにやくしよにおさめました。これを「税(ぜい)」と「いい、のこりの大ぶぶんを「私」というのです。

公は、「わたくし(ム)の作った稲を「分ける」といういみの字で、「おおよけ」のいみをあらわしたものです。公は「私」にたいする字です。

使い方

▽おねえさんが行っているのは私立の中学校ですが、ぼくの小学校は公立です。おねえさんも、小学校は公立でした。ぼくは、中学校は、どっちに行くのかな。

▽「恐竜は隕石の落下によって死滅した」という学説が公にされました。

熟語例

▽公私(公と私。「公私をこん同しては、こまる」などといいます。)

▽公用(公の用事。自分の用事でなく、国などの公の用事。「おとうさんは、公用で出ちようした」などといえます。)

▽公立(公、つまり都道府県、市区町村などの地方公共団体が設立していること。例えば都立高校や市立幼稚園などは、公立です。)

▽公益(公の利益。広く社会一ばんの利益のことです。「公益のために、少しわがままをつつしもう」などというふうにつかいます。)

▽公開(公に開放したり開催したりすること。「月の石が公開された」などといえます。)